

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！



あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。
第 184 号 2022 年 11 月 10 日 大和市民活動センター[拠点やまと] 発行



表紙絵は「やまと国際フレンドクラブ」主催
2022「第15回やまと国際アートフェスタ」
入賞作品を掲載しています。

今回のテーマ 平和 ~いま私にできること~
やまと国際フレンドクラブ賞
エイブリー ジェイリンさん
大和中学校3年生（アメリカ合衆国）

今年はやります！ 市民活動団体交流まつり
カッコーフェスタ 2022
「ベテルギウスまつり」と同時開催
日時：12月18日（日）
10:00～13:00
場所：ベテルギウス館内 市民交流スペース



コロナ禍のため、飲食を伴う出店無し、時間の短縮、使用スペースの縮小など、感染予防対策を講じた上で開催となります

-1-

11月号
2022
ベテルギウス玄関
11月5日の生け花



「 ウイズコロナ、ポストコロナの時代 市民活動、NPO活動、社会貢献活動はどうあるべきか 先駆の人を訪ねて 第10回」

ノープランの旅の中で、出会う人、言葉、感情。
全て尊く、意味がある

井上 珠子（いのうえ たまこ）さん
珠デリ（鎌倉市 稲村ヶ崎）

このシリーズもついに、10回目。連載を始めたころは、ウイズコロナの時代は間もなく終焉を迎え、今頃はポストコロナ時代となっていたと思っていたのに、まだまだ先が見通せません。そんな淀んだ空気感を吹き飛ばそうと、今回は、今年1月号の「遊び人（びと）の中間支援人を目指して（Fの初夢）」で紹介させていただいたキッチンに出向きました。そこで、1日30食程度販売している「9品旬彩デリ BOX」のおいしく、きれいで、栄養たっぷりのランチを頂いたのち、稻村ヶ崎の潮風に吹かれながら、たまちゃんにインタビューをしました。聞き手は、望月則男、船越英一（インタビュー：2022年8月18日）

10月に約1ヵ月、また旅に出ます！まずはスペインで食を学んで、その後、フロリダでマラソンに出場します！

— たまちゃんマラソンを走るんですか。すごいなあ。今日は、今の仕事のお話の前に、たまちゃんの人生観、このお店の経営とか、シェアされて使っているこのスペースのお話、将来の夢等を聞かせてください。ではまず、こだわって野菜を作って、こういうキッチンを始めようと思った「きっかけ」から聞かせていただけますか

料理が好きなののが、一番の理由なんです

やっぱり料理が好きなのが一番の理由なんですけど、自分が好きなことを一回の人生でやりたいということですね。仕事が手段じゃなくて、何かのために仕事をするというより、仕事を楽しんで過ごしたいって思っています。

— お母さんの料理はおいしかった
母の料理はおいしかったです

父方、母方両方の祖父、祖母も料理が上手です。こだわっているというか。やっぱり、おいしいものっていいですよね。どこに行っても、おいしいっていいなって思います。人間っておいしいもの食べたら、必ずにこにこするし、元気になりますよね。

— じゃあ、料理はお母さんの影響でやってみようと思ったんですか
母の影響もあるし、16歳から19歳まで一人暮らしをしていたので、やっぱり自炊しなきゃっていう状況でした

10代はずっと一人だったから、やっぱり自炊しなくてはいけなくて、クックパッドを見たり、母に「この料理、あの料理どうやって作るの」ってlineで聞いて、休日や仕事



を終えた後に作っていました。やらざるを得ないって感じでしたね。

いろんなきっかけがあって、鎌倉の認可保育園で調理の仕事をしていたんですけど、0歳から6歳までのこどもたちを預かっていたわけですが、それこそ味覚を決める時で、子どものアレルギーを治してしまうぐらいのこだわりのある保育園だったので、子どもたちに対する姿勢がほんとに人としてかっこいいなって思っていました。

そこで、30年ぐらい働いている先輩たちと一緒にいたいって思って、ずっと働いていました。そうしたら、おのずと汁の引き方とかを学んで、でき合いのものからはどんどん疎遠になりました。

— 保育園では、保母さんとしてではなくて、調理師さんとして仕事をしていたんですね

調理です。そのときまだ、はたちで子どもと触れあったこともなかったので、直接で大丈夫ですかね？触られたりしないですかって聞いたんです。そのときは子どもが苦手だったんですけど、料理にすごくこだわっている保育園だと聞いたので応募しました

— でも、たまちゃんの年齢で、保育園の調理の職につくのは珍しいですよね
言われました。若いねえって

— この稻村ヶ崎のお店（珠デリ）はどういうきっかけでこの場所にしたんですか
ここ（いなキッキン）は、大船で店をやっているときに、お弁

当を週に一回ぐらい卸して欲しいと言われて、何曜日でもいいけど、お弁当をここで販売しない?と言われたんです。このお店のすぐそばの、私が卒園した幼稚園の園長さんの姪っ子さんが経営されているんです。

そういうご縁がありました。大船のお店にも私が元園児だからということで食べに来てくれました。「おいしいから、うちでも出してみたい」と言われて、出店することになりました。

稻村ヶ崎は、ご高齢の方が多くなって、すごく静かになってきている印象があるので、盛り上げたいということだったので、力になれたならなあと思いました。前のお店を辞めると

なった時に、ぱったり彼女に会って、「えつ、じゃあ、こつちでやってよ」とお願いされました。

第1、2、3木曜日のランチのみの営業ですが、時間をすごく大事にしたいと最近思っているので、あんまり「仕事、仕事」というより、このくらいがちょうどいいんですよね。私が働いてた鎌倉の幼稚園は、規模が大きかったんですけど、この並びの稻村ヶ崎の幼稚園は、園児も減ってきていて、子どもを集めたいということで、若いお母さんが魅力的と思う華やかなお店があれば、人が集まるだろうし、とにかく稻村ヶ崎駅前を盛り上げたいと思いました

私の地元は七里ヶ浜なんですけど、お世話になった稻村ヶ崎を盛り上げるためにできることがあればなあと思ったんです。なので、ここで商売をというよりもコミュニティを大切にしたいと思いました。

ちょっと何か地域の力になれたらなあみたいな。ほんと、人と人とが集まって、みんなで楽しみながら「何かしたいね」という感じになればいいと思っていました。

— メニューが 日替わりじゃなくてお店が日替わり



— 3

お店が日替わりなんです。だから、すごく楽しいですよね。ここはお店をやっているというより、私はメインがケータリングなんです

私の仕事はオードブルをつくることで、ホームパーティーとか、ちょっと人が集まる時に、20個のお弁当を提供するとかとかそういう大口の仕事を受けています。

— ケータリングが主なんですね

そう、だからケータリングをやっていることを知つてもらうために、ここは地域の人たちとの交流を兼ねてっていう感じでやっています

ケータリングの仕事も、ここを借りてやっています。夜はもう基本的に空いているので、居心地はとてもいいです。

それと、うちはほかの店と違って、なくなり次第閉店としています。「すみません。ガラガラガッシャン」っていうよりも、お客様がいたらみんなでいるし、いなかつたらちょっと海に行きたからって、早く切り上げたい日もあるという感じで、なくなり次第となっています。



— 素晴らしいし、楽しそうですね
そうなんです。おかげさまで。ほんとに楽しいですよ。「ほっとけ、俺の人生だ」という言葉がありますよね

ほんとにそんな感じで、ほっとかれたいと言つたら語弊がありますけど、自分がしたいことができていることが私の一番の喜びですね。

それはわがままと思われて、迷惑をかけてしまった時期もありましたけど、この性格というか根性があったから、ぶれずにここまで進んで来れたなあって思うので、なんにも後悔はなくて、今はとても楽しいです。

— なるほど、そうなんですね

一番大事ですね。自分の声を聞くって

今は人の声が見やすい時代というか、人の情報が多くなります。SNSもそうですが、それはまあ置いておくとしても、今、何をすべきか、何をしたいかっていうことを日々考えながら動いているというか、いや考える前に結構動いちゃっています。

— なるほど、今そうやって生きられる人は多くないと思います。なおかつ、たまちゃんのオーラが人を惹きつけてるっていう感じがします。結果的にそういう中で人とご縁ができて、そのうえで自分に合った人を選んでいるようにみえます

「人は自分を映す鏡」と言いますけど、同じようなトーンの人気が集まるなって思っています

光り過ぎているところに暗い人は行かないし、何ていうんだろうな、選ぶというより、会う人会う人がほんとに素敵だなって思います。

だから、今の私は素敵な人たちに囲まれているなあってすごく思いますね。

— それは、きょうのランチを食べてわかりました。美味しいし、色合いもそうだし、総合的にバランスを考えているなって感じがします。こういうスペースはなかなかないので、いいですね。空気感も海辺の町って感じがすごくします

— そうですね。それと駅に近いし便利です



お客様も一回来てくれたら、絶対また来てくれるなあっていう感じなので、まあ焦らずぼちぼち自分のペースでやっています。

— お弁当、ケータリングに入っている野菜はどこで調達しているんですか

私の師匠にあたる女性がいて、その方の畑でいろんな作業とか、野菜作りを教えてもらいながら一緒にやっている畑から調達しています

— 農業とか菜園には、どういうきっかけで興味を持ったんですか

野菜づくりをするのは、そもそも野菜が好きだからです

市場とかに買いに行くんですけど、この野菜はどうやって作るんですか? どうしたらこれができますか? これとこれの違いはなんですか? この品目はなんという名前ですか? 等たくさん質問をします。

種は薄くところから、適量、深さ、間隔などを考えます。



厚蒔きだったり、種をたくさん入れてしまうと人参はぎゅうぎゅうになっちゃうし、薄蒔きだったら、すかすかで収穫量も少ないとか考えます。それと種選びも大切です。

— すごいことですね。実がなるだけでもすごいし、それを美味しくならせるって凄いですね。毎日言い聞かせているんじゃないですか

やっぱり野菜に好きっていう気持ちが伝わることはありますよね

野菜は生きています。気づいたら畑にいる感じですね。

— たまちゃんの人生の、あるいは仕事の目標はなんですか

か

将来、どこで何を作るかはわからないんですけど、ケータリングや大きなイベントをこれからもどんどん受けていきたいですね

もっとたくさんの国の味を取り入れて行って、いろんな人に伝えたいです。

— さっさとおつしやった、おいしいものを食べさせたいという気持ちがありますね

そう、結構返ってくるというか、その気持ちが形になっているというのがあるので

まあ赤字には絶対ならないから。

やっぱりいい気分でいたら、いい気分のものが入ってくるんだなあっていうのは一人でやっていると思いますね。

人に雇われていたら多分そういうのがわからないと思うんですけど。原価計算についてはかなり勉強しました。

— 原価計算とか関係なく、今日いただいた「珠デリ」のお弁当は、おいしいものを食べてもらいたいというたまちゃんの気持ちであふれています。お客様に笑顔になつてもらいたいという思いが伝わってきます

笑顔になってもらって、それが何かにつながったり、美味しいかったから、今度集まりがあるから、保育園の職員会議で毎月取りたいとか、そういう形で、ラフにやっていても大丈夫っていう感じですね

— 市場原理というか、人に雇われる、あるいは雇うという概念はたまちゃんにはないんですね。仕事の目標と人生の目標って、あんまり変わらないというか同じですね

だから、最近、今までできることしかしたくなかったり、今まで同じものを作ったり、同じようなことをしてきたけど、これからは全然やったことない体験をどんどん増やして行きたいなと思っています。

できないことをやって、それができるようになるとか楽しいというより、とりあえずやってみよう、いろいろやってみようっていうモードに入りつつあります。だからこそ、営業時間とかを決めずに、時間を作りたいと思っています。

最近、茨城の友だちから、築154年の明治時代からの古民家に引っ越して、ヨガのインストラクターをやりながら無農薬の米作りをやりたいので手伝ってほしいって言われました。畑のノウハウとかを話そうみたいになっています。茨城まで片道5時間ですけどね。来週行きます。(今年の8月)

お金はいつでも稼げます。手段を選ばなければ気持ち次第です

よね。いざとなったら道路工事でも夜勤でもなんでもできる。メンタルや体力はあると思っているから。今はそういう「いざというとき」ではないから、好きなことをやるこ

— 4

とができます。でも同世代の子たちは、みんな終電までオフィス街で働いているんだろうなって思います。



この踏切を渡って左手が「珠デリ」
(江ノ電稻村ヶ崎駅から徒歩すぐ)

— 聞いていたるたまちゃんは年齢層幅広く、たまちゃんの年齢からすると普通ではありえないなと思う、いろいろな人との縁がある感じがします。たまちゃんは自分の思いに従って動いているけど、たまちゃん自身がおもしろいだけじゃなく、みんなの楽しい、うれしいにつながっているから、いろいろな縁ができるんですね
私がちょっと迷っていた時期があって その時に、先輩に言われたのが、「たまちゃん自身が、光になってみんなを照らしてあげなさい」という言葉でした

そのとき、そうすることがいいなって思つたんです。何かを誰かにしてあげるというわけではなく、自分が楽しんだり、それを見ていたり、聞いていたりする。ちょっと一緒に時間を過ごす子たちを照らしてあげるなんて言つたら、おこがましいんですけど。

なんとなくみんなが明るくなってくれたらなっていうような感じで。私は基本的にポジティブです。

— いろんな人と出会うことは大事なことだから、それが今からできているってすごいですね

出会いがすべてですね

人の出会い、人の言葉との出会いだったり、経験との出会い、もう毎日出会いたいです。いろんなものに。いいことでも、悪いことでも。

やっぱり同じことをやり続ける中で大事なことが見えたたり、続けることで得られるものもありますけど、せっかく、この身体を持ってこの地上に来れたので、もう楽しむしかないなって思うので、どんな人にも出会いたいです。

— 多分、そういうふうに思つてると、本当に人に恵まれて食べていけますね

ほんとにそう思います。こんなに助けてもらつていいのかなって思うぐらい、皆さんに助けられています

絶対に一人じゃ無理です。

一人で、バックパックの旅に出ても、両親のいる家があるので楽しむことができます。帰る場所があるから一人旅ができるのであって、自分の家があるってどれだけありがたくて、すばらしいことなんだなっていうのに気づきます。

一人旅で出会ったヨーロッパの人は、放浪というか、家族もいなくて、もう、すごい荷物です。バックパック2個という人もいます。もう前と後ろですごいんです。私なんかぜんぜん足元にも及ばないというより、楽しみ方がまったく違います。私は1か月というスパンを決められている

からこそ、旅を楽しめているんだと思います。

やっぱり南米はすごかったです。日本に生まれただけでも、裕福だなっていうことをひしひしと感じたことがあります。一人だと、会話する相手がいないので、自分との対話になります。ただバスに乗っているだけでも、人と喋っちゃうともうその相手の考えで話すことになりますからね。一人の時間ってほんとに大事だなって思います。

携帯も4日に一回ぐらいWi-Fiでつなぐみたいな感じだったので。SNSには、「すごい。イエーイ」ってことしか載せないですよね。でも本当は何回泣いたことかっていう感じですね。ハプニングがありすぎました。

— 日本の働いている人は、1週間、長くても10日間休むのが精一杯ですよね

そうですよ。ほんとに。お金はあるのに時間がないって、よく聞きます

時間があるうちにっていうより、早く経験していたら、その思い出と一緒に歩めます。

10年後に同じコースを回ったとしても、落ち着いちやつていると、同じように受け止めなかつたりすると思うので、まだスポンジが柔らかいうちに旅をしたいと思います。

— 若いうちから、こういうことができる人は本当に幸せですね

ほんとにそう思います。私の父も定年したら、ポルトガルに移住したいと言っていますが、もちろんいいと思うんですけど、全然楽しみ方が違うと思います

たとえば32時間の長距離バスに乗るとすると、今だったら乗れるし、船の上から飛び降りたりもできますけど、34歳の私だったらたぶん、怪我して仕事がとか、子どもがとか、何かしらの思いで「やめておこう」ってなるかもしれません。

今は、「できてよかったな」というか、もっといろいろ経験したい。そういう意味で、これまでしたことないことを経験したいです。

— たまちゃんはあんまり予定とか決めないで旅に出るんですよね

はい、もうノープランです!!

たまちゃんへの楽しいインタビューは、これでおしまい



珠ちゃんのトルコ旅で、フェニエという町を訪ねたときのスナップ。おいしそうだし、人との出会いがステキで、たまちゃんらしい。(写真:珠ちゃん提供)



やまもり☆ホッとスクランブル
大和市民活動センターだより

『やまとっこ☆みつけた』



第409回 10/4(火)

「市民活動グループ ごきげんカンパニー」
代表 田中 かおりさん



第410回 10/18(火)

「大和南京玉すだれ&ジャグリングクラブ」
会長 村田 正和さん



ご自身のご家族の介護に直面し、家族介護者（ケアラー）への支援の必要性を痛感したことが設立のきっかけとなり「家族の介護でつぶれる人をなくしたい」思いから2019年に5名のメンバーと共に「市民活動グループ ごきげんカンパニー」を発足、今年4年目を迎えて現在11名の運営メンバーで活動しています。2023年2月に第3回目となるセミナーの開催を予定しています。

問合せ：090-1057-9588（田中さん）
mail : gokigen kaigo@gmail.com



次回の出演 411回 11/1(火)「NPO法人 ゲートキーパー和楽」・412回 11/15(火)「やまとパワフルミュージックサポート」・413回 11/29(火)「NPO法人 パノラマ」
FM やまと 77.7MHz 第1.3.5(火) 生放送 9:00 ~ 10:00 同日再放送 15:00~

TSUBASA'sトーク 第13回 4泊5日の農山村体験「若葉のふるさと協力隊」

①NPO・自治体・協力隊が連携して行うプログラム

主に地方の暮らしに興味のある大学生を対象に、「緑のふるさと協力隊」の派遣先で農業や地域行事の手伝いをするボランティアプログラム「若葉のふるさと協力隊」を開催しました。主催のNPO法人地球緑化センターが広報と募集を行い、各地の緑のふるさと協力隊は、派遣先で地球緑化センターや自治体などと協力して体験の内容決めや準備、運営をします。

参加者に色々な体験を提供するだけでなく、地域の活性化や、協力隊活動の促進、来年度の緑の協力隊の応募につなげるという目標もあります。

尾畠が緑のふるさと協力隊として活動する岩手県一関市花泉町でも、10月20日～24日の4泊5日の日程で開催し、東京と千葉から参加した大学生2人に色々な体験を用意しました。



公民館で記念撮影

③ブロッコリーや大根の収穫

体験2日目の午前中、色々な野菜を栽培しながらドレッシングなどの加工品作りにも関わる農家さんの元へ、収穫体験に行きました。見渡せるようなブロッコリーとキャベツの広い畑で、農家さんから、刈り取る時のカマの使い方や、食べ頃の大ささ・硬さを聞きながら収穫しました。



広いブロッコリー畑

④郷土料理「かにばつと」作り

体験3日目の午後、岩手県の北上川で獲れたモクズガニを使った「かにばつと」作りを、趣味でカニ漁をしている農家さん宅で体験させてもらいました。カニを生きたまま解体するところから始め、手足や甲羅でとった出汁に「はっと(すいとん)」を入れて茹で、「かにばつと」を作りました。



かにばつと

②農業体験や郷土料理作り

花泉に来て多くの農作業をお手伝いしてきたので、「農業にも色々な形がある」と参加者に知つてもらえるよう、ブロッコリーの収穫や、梨園の草刈り、米の乾燥貯蔵施設の見学など、農業体験のバランスを意識してスケジュールを組みました。食文化も楽しんでもらえるように、郷土料理「かにばつと」作りや、餅つき・餅料理作りも行いました。



梨の収穫

大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手 この手」 第184号 発行日：2022年11月10日

大和市民活動センター <開館日 月～土 9:00～18:00>
<休館日 12月29日～1月3日・毎月第3月曜日>
〒242-0018 大和市深見西1-2-17

発行：大和市民活動センター 拠点やまと

TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788
e-mail:yamato@ar.wakwak.com
http://www.kyodounokyoneten.com/